

新たな一歩から・・・

姫漁業協同組合女性部

部長 小坂 栄子

1. 地域の概要

私達の住む石川県能都町姫は、能登半島の富山湾に面した小さな地区です。全世帯数は280、人口は884人です。主な産業は漁業の他には特段なく、漁業者以外の人は他地区に働き出ています。

2. 漁業の概要

私達の所属する姫漁協は、正組合員59名・准組合員115名で合計174名です。漁船隻数は全体で約60隻程ですが、主なものは中型イカ釣漁船7隻・小型底びき網漁船3隻・小型イカ釣漁船2隻・刺網專業船4隻などで、その他は雑漁を行っています。水揚金額は全体では約10億円程です。このうち9割を中型イカ釣り漁業が占めています。このように、私達の姫漁協は中型イカ釣漁業を中心とした漁協となっています。

中型イカ釣漁業について、もう少し詳しく説明すると、まず、操業の期間は6月～12月の7ヶ月間です。一航海の期間は漁模様によって異なりますが、漁があれば2週間程度のこともあります。概ね1ヶ月間程度です。入港後1日程で水揚げを済ませ、また沖に出ていきます。主な漁場は日本海・北海道などの沖合の海域ですが、ロシア海域も重要な漁場です。1隻の乗組員は7名程度です。近年の課題は①魚価が安いこと②ロシア海域など漁場の確保③乗組員の確保④漁船の老朽化 など深刻です。

漁船隻数の推移を見ると、昭和50年代半ばに最も多く40隻程ありました。他に『北洋でのサケマス流網漁』や『太平洋でのイカ流網漁』などもあって、遠洋漁業や沖合漁業で地区全体が活気にあふれた時代でした。しかしながら、その後200海里の設定などで、

全国規模で幾度かの減船が行なわれました。その度に仲間の漁船が廃業していき、現在では中型イカ釣漁船が7隻残るのみとなりました。当時を思い返すと大変さみしく感じています。

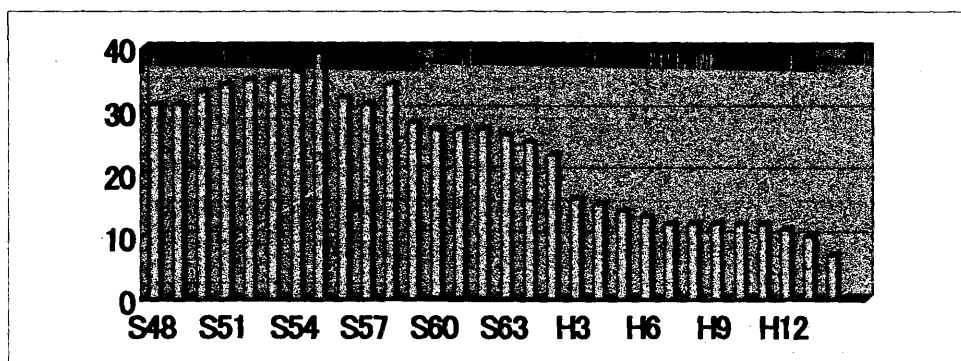


図-1 姫漁協所属中型イカ釣漁船隻数の推移

3.グループの組織と運営

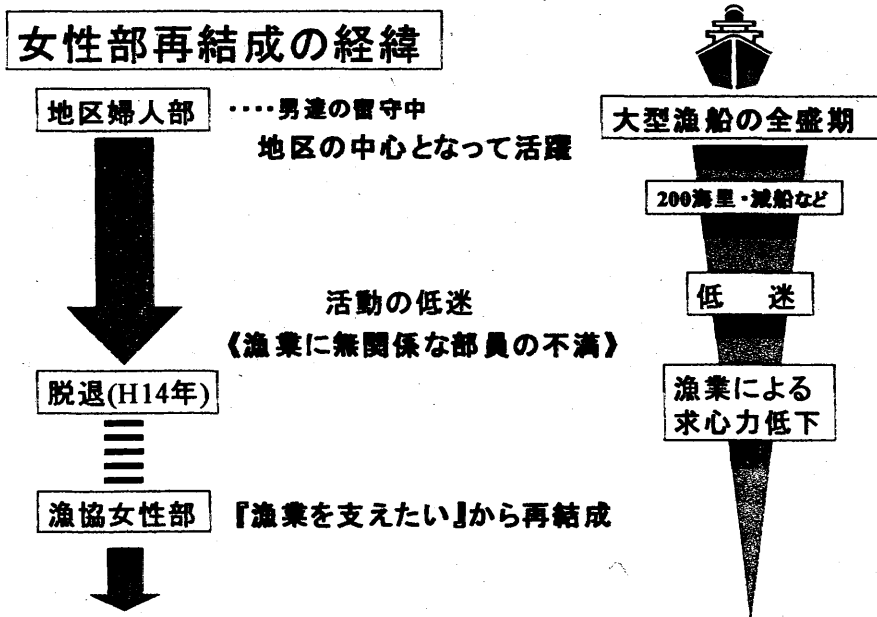
私達の女性部は、平成14年4月に地区婦人部を脱退して新しく作りました。部員は当初2名からスタートし、現在6名まで増えました。しかしながら、まだまだ足りないと思っています。

私達女性部が『なぜ地区の婦人部から脱退し、再結成することになったか?』その経緯について説明します。私達はこれまで地区婦人部として活動してきました。漁業最盛期の昭和50年半ばには『中型イカ釣』『サケマス流網』『イカ流網』など45隻の大型漁船が操業していました。そして、地域内の働き手は殆ど所属漁船の乗組員として乗船し、婦人達も乗組員の妻同士、親密な付き合いを行い強い団結で結ばれていました。この頃には婦人部部員は約300名でした。

私達は夫達の長い航海の間、家庭と子供を守り、また、男達に代わって地域の中心となって、祭礼や防犯など様々な行事をこなし地域運営を担ってきました。私達が、地域を支えて来たと言っても過言ではないと思っています。本当に婦人部活動の活発な時代でした。

ところが、世の中は大型漁船の操業環境に厳しく変わってきました。200海里水域が設定され、経営不振などから幾度かの減船が行われました。その度に親しかった仲間が廃業していきました。漁船隻数も減少し、地区の働き手が漁業を離れて陸の仕事に就くようになりました。その結果、婦人部部員も50名程度にまで減少していき、また、部員の中には漁業世帯が殆どなくなりました。こうなると、強かった婦人部の繋がりも段々薄らぎ、話題も漁業のことよりも他のことが多くなりました。活動の内容も水道料金や税金の集金などが主になりました。

そして、漁業に従事しない人から、漁業関係の行事に参加することに不満が強まってきました。こうした状況の中、平成14年にこれまで地区婦人部と漁協婦人部が一体であったことに見直案が出され、漁協婦人部が脱退することになりました。以上が脱退に至った経緯です。



そして、新たに漁協女性部を作りたいと思いました。この時に賛同してくれた人は1名で、私を含め2名からのスタートとなりました。夫達の沖合での操業を少しでも手助けしたいとの気持ちからでしたが、実際、どうして良いか分からないところを漁協の田端部長の応援もあって、まず、部員を増やすところから始めようということになりました。漁業に関係する婦人に封書で入会を呼びかけたり、実際に家に訪問してお願いをしました。そして、ようやく5名となり、平成15年になって新たに1名増えて現在6名です。

4.活動選定の動機及び活動状況と成果

先述したように私達の女性部は出来たばかりで、部員もわずかです。しかしながら、夫の漁業を支えたいとの思いで集まったメンバーです。その気持ちで、取り組んできた活動について紹介します。主な活動として、

第1は『インドネシア人研修生との交流会』です。

中型イカ釣漁業の課題として乗組員確保があることを紹介しましたが、そのため、平成14年漁期から若いインドネシア人が研修生として乗船することになりました。慣れない土地で気もつかっていることも多いと思い、また、地元の人達に研修生への理解を深めてもらうことを目的に交流会を開催しました。

第2は『インドネシア研修生のために洋服を集める活動』を行っています。

第3は『海難慰霊碑の掃除』を行いました。

第4に『地域の老人会と一緒に料理講習会を開催』しました。

平成15年11月15日に、能都町交流センターで料理講習会を開催しました。地域の老人の方が参加して全員で50名程になりました。能都町宇出津から寿司屋さんを講師に招き、海苔巻き作り方を学びました。プロの技に感心しながら、皆さんで楽しい時間が過ごせたと思えました。

『インドネシア人研修生との交流会』について、もう少し詳しく説明します。

休漁期の平成15年3月16日に研修生8名を招き、漁協事務所横にある能都町交流センターで行いました。インドネシア料理と一緒に作ることで、研修生と女性部が混ざって3班に分かれ、各々何を作るか相談しました。その後、近くのスーパーに班毎に買い物に行き料理を作り始めました。初めてみる調味料に興味をひかれ、少し危なっかしい包丁さばきに冷や冷やし、大きなボール一杯の唐辛子を見て驚かされ、どんな料理ができるのか少し心配にもなりましたが、楽しく準備ができました。

そして、インドネシア料理が完成しました。『かき揚げ風のもの』、『羊の串焼き』、タレには皆さんが想像もつかない唐辛子が使われています。そして、『スープ』『カレー』はまさにカレーでした。そして『ソト』と言う『はるさめ』を使った料理です。

料理ができ、地域の人と一緒に交流会を開始しました。あちこちから『辛ツ!』『カラ〜』との声もたくさん聞こえたり、研修生も一生懸命に地区の皆さんに気遣いしている様子が伺われました。そして、和やかな雰囲気ですべて終わりました。その後は、私達や老人会の人で踊りや歌で歓迎しました。

こうして、楽しいひと時が終わりましたが、午前中に初めて研修生に会ったときと変わって、研修生も含めて皆さんの表情が和やかになっていました。

私達の初めての活動となった交流会が、新聞にも取り上げられ部員全員で感激しました。活動への意欲が湧いてきたような気がしました。



参加していただいた人にアンケートを行い、12名の方から回答をもらうことが出来ました。アンケートには4つの質問を作りました。

第1は『研修生について、どう思われましたか?』との質問ですが、

全員の方から『好感が持てる』との回答を頂きました。『つき合いたくない』との回答はなくホッとしました。

第2は『これから見かけたらどうしますか?』ですが、

これも全員から『声をかけたい』との回答を頂きました。

第3は『交流会はどうでしたか?』でしたが、

全員『良かった』との回答を頂きました。

最後は『料理はどうでしたか?』との質問ですが、

これは回答が分かれ『なじめない』方が1名いましたが、残りの方は『まあまあ』或いは『うまい』との回答で全体的には良かったものと思えました。

以上のように、交流会の開催は出席した方からは、ある程度評価してもらえたと思えました。これを受け私達女性部自身の評価としては、

まず『成果』としては、

①地域の方の偏見のようなものを解消するのに、少し役立ったと思えました。

②初めての活動を無事に終え、部員の中に、これからの活動の弾みとなる気持ちが芽生えました。

次に『課題』は、開催について事前の宣伝が足りなかったことです。次回はもっと早くから宣伝し、多くの方に参加してもらいたいと思います。

5. 今後の課題や計画と問題点

これからの私達の目標は、

第1に、やはり『部員をもっと増やしたい』と思っています。

これから色々な活動をする際に、やはり部員が少ないと思います。加入への働きかけを続けて行っていきたい思います。

第2は、『昔のように、お父さんの漁業を支える活動、そして、地域を明るくする活動』行っていきたいと思います。

最後に、一度、脱退した経験を生かし、『新しい女性部活動は自分たちのペースで楽しみながら出来るものとしたい』と思っています。

今、石川県内の女性部は、部員の減少や高齢化がと云ったことが大きな課題となっています。私達女性部は地区婦人部から脱退して、再結成することになりましたが、私達が脱退する前の地区婦人部と少なからず同様な状況になっている女性部もあると思います。また、全国でも同じ状況ではないかと想像します。

そのため、この私の発表が今後の女性部のあり方など、皆で考えるきっかけになれば幸いと思います。